

家庭における読み聞かせ実践とその考察

—音声同期化現象の分析を中心に—

教科領域教育専攻

言語系(国語)コース

上田 尚

指導教員 余郷裕次

I 研究の目的

家庭において、9歳児に対する1年間の読み聞かせ実践を行い、その記録を研究対象として取り上げた。1年間読み聞かせを継続して実感したことは、毎日、親子が一つの本を手にして向かい合う時間を持つということの重要性である。そして、その時間は、読み聞かせという行為がなければ、現代の生活では手にすることが非常に難しい良質の時間であるということだ。したがって、本研究では、読み聞かせの時間と空間そのものの意味について考察を試みることを第一の目的とした。また、本研究の第二の目的は、1年間の読み聞かせ記録を分析することによって、読み聞かせによってもたらされるさまざまな効果について明らかにすることである。「読み聞かせ以前」と「読み聞かせ以後」の子どもの変化を分析し、読み聞かせの可能性の大きさについて検証したい。

II 論文の構成

1 実践の動機と方法

(1) 実践の動機

(2) 実践の方法

2 研究の目的と方法

(1) 研究の目的

(2) 研究の方法

3 考察

(1) 読み聞かせの可能性—『りんごがひとつ』による考察—

(2) 読み聞かせ場面における「音声の同期化」とその周辺

① 呼吸の引き込み

② 音声の同期化

a 方法

b ア「親の声を子どもが繰り返す」現象について

c ウ「子どもの声を親が繰り返す」現象について

d イ「親(子ども)の声にあわせて子ども(親)が発声する現象について

e 「息が合う」現象について

③ 考察(①, ②のまとめ)

④ 読み聞かせ場面における「ボケとツッコミ」の意味の考察

⑤ 読み聞かせの空間

(3) 読み聞かせの効果

① 読書生活

② テレビの視聴

③ 国語の学習

a 通知表による考察

b 単元末テストによる考察

c 生活日記による考察

4 結果と課題

参考文献

資料

III 論文の内容

1では読み聞かせ実践を始めた動機とその方法について述べた。

2の研究の目的は前述したとおりであるが、それを達成する方法として音声同期化現象の分析を中心にして研究を進めることとした。

3(1)で、『りんごがひとつ』の読み聞かせ記録を分析した結果は、読み聞かせの世界の豊かさと、その効果の大きさを予感させるものとなった。

(2)では、『りんごがひとつ』の読み聞かせ記録を詳しく検討した。そこには、親子相互に、呼吸の「引き込み」のあらわれとしての音声同期化現象が観察され、読み聞かせが人間的なコミュニケーションの深化・回復を促す教育的活動としての意義を持つことが明らかとなった。また、読み聞かせ場面における「ボケとツッコミ」現象が読み聞かせの継続による息の合った状態によってもたらされることが確認され、それが物語の提示する価値を受け入れる上で、重要な役割を果たしていることが推察できた。さらに、読み聞かせの空間は「楽しさ・美しさ」、「幸福感・安心感」、「一体感」をもたらすものであるが、加えて脳を活性化させ知的な刺激を受け入れやすい状態を作り出していることが、読み聞かせ記録から推察された。また、毎日、短時間の読み聞かせの時間が、子どもの意識の中で途切れることなく存在している可能性を発見した。その結果、読み聞かせの空間が、子どもとそれを共有する大人にとって、質が高く、幸福で、知的な時間が流れる場であること、すなわち、人間性を回復するための豊かな空間となり得ることが分かった。

(3)では、1年間の読み聞かせによって子どもにどのような変化が起こったのか、また起こりつつあるのかを、読書生活、テレビの視聴、国語の学習の3点か

ら考察した。読書生活においては、本を沢山読むようになったわけではないが、読書に対する姿勢が形成された。テレビの視聴では、読み聞かせがテレビに脅かされることがなくなった。国語の学習では、意欲の向上と、心情的な落ち着き、言葉に対する愛情が見られるようになった。

IV 今後の課題

- 1 小学校時代全体を通じた長い時間の中で、家族への影響も含めた読み聞かせの効果を検証すること。
- 2 この研究で明らかになったことが、他の読み聞かせ場面（たとえば、学校で担任教師が学級の生徒全員を対象として行う）においても見られるのかどうか。学校現場における実践の中で確認していくこと。
- 3 絵本の効果について研究を深めていくこと。
- 4 読み聞かせの空間を過剰な情報や要求から開放される場、すなわちスローライフの実践の場と位置付け、人間らしい生き方について、また、それをめざす教育について考えていくこと。

V 主要参考文献

- 鈴木情一『絵本の読み聞かせ事態における母子の音声同期化現象について』上越大学研究紀要, 1999
- 渡辺富夫, 大久保雅史『コミュニケーションにおける引き込み現象の生理的側面からの分析評価』情報処理学会論文誌 Vol.39 No5, 1998
- ジム＝トレリース (亀井よし子訳)『読み聞かせ—この素晴らしい世界—』高文研, 1987